

令和5年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）⑥

令和5年9月26日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和5年度行政評価・外部評価⑥ <b>「子ども医療費支給事業」【保険医療課】</b>
開催日時	令和5年9月26日（火） 午後3時40分から午後4時35分まで
開催場所	市役所西庁舎2階 第7・8会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 田村佳子、岡崎信久、樋口和則、近藤恵美子 <担当課> 福祉部長 川本満男 課長 林元美 係長 武田憲明 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 質疑、意見等	<p>（委員）</p> <p>成果指標である1人当たり医療費支給額は、高い方が良いのか低い方が良いのか、どう考えているか。</p> <p>⇒医療費が高い場合でも利用した人数は少ない場合もある。医療費の大小よりも適正な医療費が使われているかが重要であり、分析が難しい。</p> <p>（委員）</p> <p>状況によって読み方が変わるものを成果指標とするのは適切でない。必要な医療が正しく受けられているかを図るものや、過剰な医療を受けている件数などの指標は設定できないか。また、医療費支給額の集計方法はどのようなか。</p> <p>⇒医療費制度について図示により説明</p>
--------------------	--

(委員)

成果指標はどのように算定された金額か。適正な金額かどうか分からない。

⇒医療費のうち、市役所が負担している3割分の金額である。

(委員)

ちょっとした症状でも躊躇なく病院に行けるのでありがたいが、制度の対象外になる直前の中学3年生の終わりに駆け込み受診する人も多いと聞く。また、新市長は高校生の通院も対象とする方針とのことだが、実現できるのか。

⇒医療費が正しく使われているかを市で判断することは難しい。

高校生の通院医療費の支給については、近隣自治体で実施しているところも多く、新市長は公約に掲げているが、一度始めるとやめることはできないので、財政のバランスを見ながら慎重に判断しなければならない。

(委員)

中学生、高校生になると受診する回数は減るため、莫大に予算がかかるわけではないと思われる。本市もこれから少子化していくことを踏まえ、検討してほしい。

(委員)

ゼロ円ではなく、1回500円、1000円など一部負担をさせている自治体もある。予防に対し予算を振り分けることも必要ではないか。

(委員)

医療機関の治療が適正かどうかは、分からないのか。

⇒審査機関がレセプト審査を行い、適正かどうかをチェックしている。

(委員)

市民が医療費が無料だと思っているのが問題ならば、医療費がい

	<p>くらかかっているかを市民に知ってもらう方策はないか。償還払いなど。</p> <p>(委員)</p> <p>一時的だとしても払うお金がないから医療を受けられない、という状況を生まないように、現状の制度は必要である。適正な医療にすべきなのは分かるが、市民側からすると、何が適正な医療かは分からない。</p> <p>(委員)</p> <p>魚の骨図について、頭・背骨の設定が大まかすぎるので、中間成果レベルの具体的なものに落とし込むべき。</p> <p>(委員)</p> <p>医療費の増加は結果であって、要因ではない。医療費増加を引き起こす要因を書き、その要因分析を繰り返していかなければならない。</p> <p>医療費の適正利用のためには、医療費に関する情報を積極的に公表し、啓蒙していく必要がある。</p> <p>(委員)</p> <p>新型コロナウイルスが流行した際に医療費が下がったのはなぜか。受診数が減った理由を分析できれば、R2年度をヒントに医療費を下げることはできるのではないか。</p> <p>⇒学校が休校となり生徒同士で風邪をうつす機会が減少し、医療費が下がったという見方がある。</p>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<p>成果指標の設定は難しいと思うが、課題分析の議論をし、検討してほしい。</p> <p>これまでどおり市民が安心して受診できる環境は目指しつつ、医療費がどれだけかかっているかを市民に伝え、なるべく正しく医療費が使われるよう啓蒙活動を行ってほしい。</p>
---------------	--

